

1 日本の農・水産業

1 日本の農業

①稲作のようす

米づくりは日本の農業の中心となっており、日本の耕地面積の約半分が田である。また農業全体の産出額でも、米は大きな割合を占めている。

<稲作の盛んな地域>

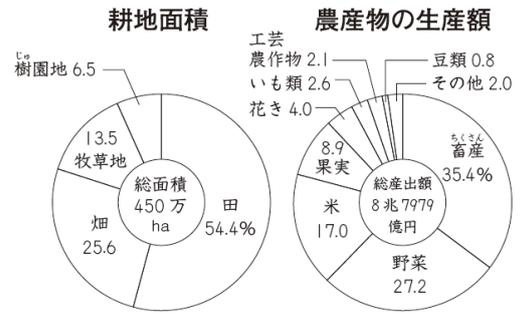
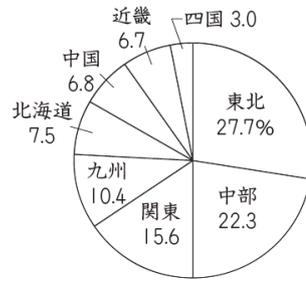
全国で生産される米の約4分の1が東北地方で生産されている。北陸地方とともに、日本の米蔵（穀倉地域）と呼ばれている。

<米の生産調整>

農業技術の進歩により、同じ広さの水田からとれる米の量は増えてきたが、食生活の変化によって米の消費量は少なくなり、1960年第後半から米が大量にあまるようになった。あまる米を減らすため、国（政府）は1970年から米に生産調整を行い、作付面積を減らして生産量を抑える減反政策を進めた。

- ・転作…水田での米作りをやめて、麦や豆などを作ること。

地方別の米の生産量割合



米づくりのさかんな地いき



②畑作のようす

<野菜づくり>

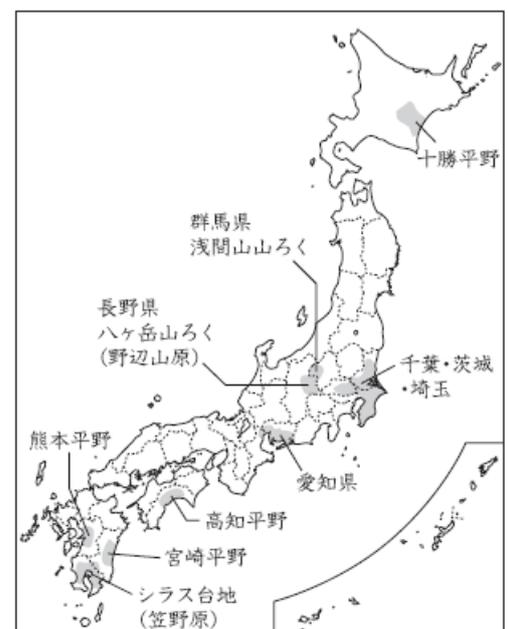
特色ある気候を生かして他の地域と時期をずらして栽培することにより、野菜を高い値段で売ることができる。

- ・促成栽培…比かく的温暖的な地いきで、ビニルハウスなどを使って、他の地域より早い時期に出荷する栽培方法。（ピーマン・きゅうり・なすなど）

- ・抑制栽培…高原などで行われる、夏でもすずしい気候を利用して、他の地域より時期をおくらせてつくる栽培方法。レタス・キャベツ・はくさいなどの高原野菜を作る。

- ・近郊農業…大都市に近い地いきでは、野菜を新鮮なまま、あまり輸送費をかけずに運べる。

畑作のさかんな地いき



③果物づくり

<果物づくりの盛んな地域>

・りんご…日本で生産量の多い果物の一つ。涼しい気候の地域で作られる果物の代表。青森県の津軽平野、長野県の長野盆地

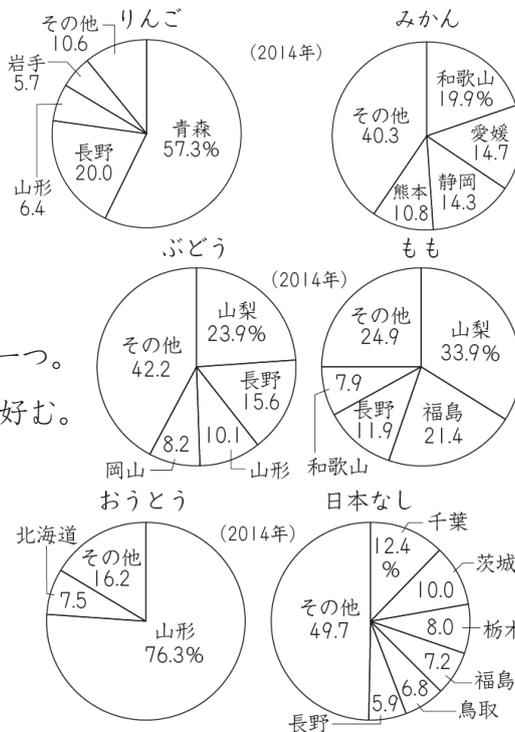
・みかん…日本で生産量の多い果物の一つ。あたたかい気候と水はけのよい土地を好む。和歌山県、愛媛県、静岡県

・日本なし…千葉県、茨城県、鳥取県

・ぶどう…山梨県の甲府盆地

・もも…山梨県の甲府盆地、福島県の福島盆地

・おうとう…山形県の山形盆地



果物づくりのさかんな地いき



④畜産のようす

日本は土地がせまく、牧草地に恵まれないため畜産の経営規模はアメリカやオーストラリアなどに比べて小さい。また、飼料の多くを輸入にたよっているため、生産費が高くなっている。

<畜産の盛んな地域>

・北海道…気候が牧草の生育に適しており、広い牧草地が確保できるので、乳牛の飼育頭数が全国で最も多くなっている。

※乳牛を飼って牛乳、バター、チーズなどを生産する農業をらく農という。

・南九州…阿蘇山、霧島山などの火山のすそ野では、昔から牛（肉用牛）や馬の放牧がおこなわれてきた。

鹿児島県は豚の飼育数が全国一である。またブイ

ラー（肉用若鳥）も鹿児島県と宮崎県が全国有数の生産県となっている。

⑤農業と自然災害

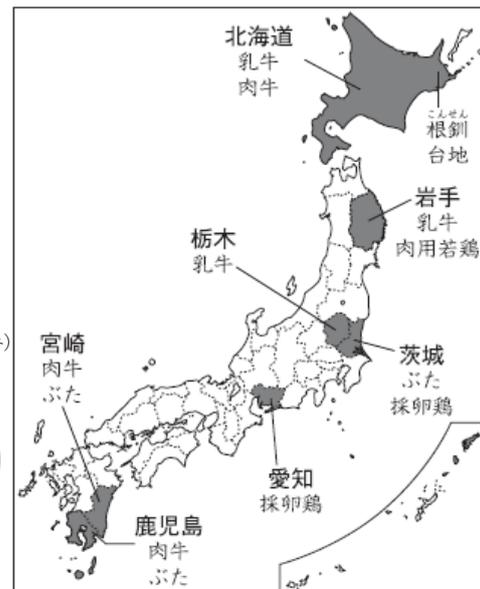
・風水害…台風の暴風雨や梅雨の長雨などによって起きる。台風の影

響を受けやすい南九州や四国地方では大きな被害が出ることもある。

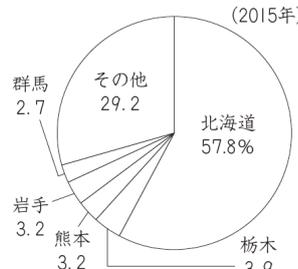
・冷害…夏になっても気温が十分に上がらないため、作物の生育が悪くなったり、育たなくなったりする害。東北地方や北海道の太平洋側で起こりやすい。

・干害…日照りによって水が不足し、農作物が枯れてしまう害。瀬戸内海沿岸部や九州地方北部などでおこることがある。

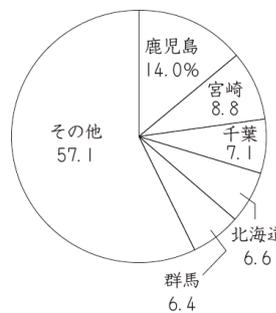
畜産のさかんな地いき



乳牛の頭数割合



ぶたの頭数割合



肉用若鶏の羽数割合



2 日本の水産業

①とる漁業

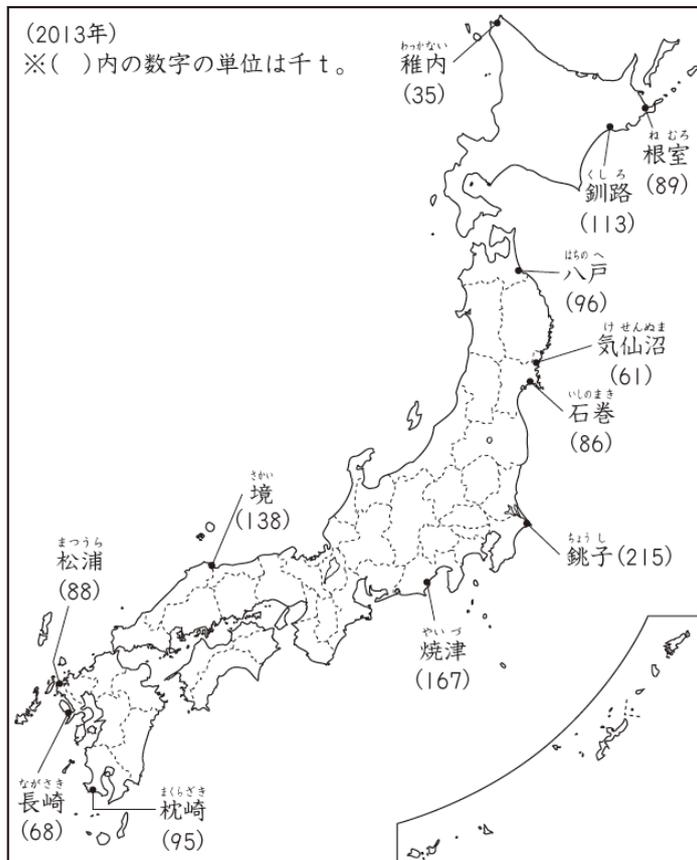
- ・沿岸漁業…海岸近くの海で、日帰りで行われる漁業で、小型漁船を使って行われる。
- ・沖合漁業…おもに海岸から80～200kmほどの沖合いで、10トン以上の漁船を使って、数日かけて行われる。漁業協同組合や漁業会社の単位で行われるようになった。
- ・遠洋漁業…大型の漁船で船団を組んで航海しながら、1週間以上かかる遠くはなれた漁場で行う漁業。1977年ごろから各国が200カイリ^{はいた}排他的経済水域を設定し、外国の船がとる魚の量を制限するようになったことなどから、大きく落ち込んだ。

②育てる漁業

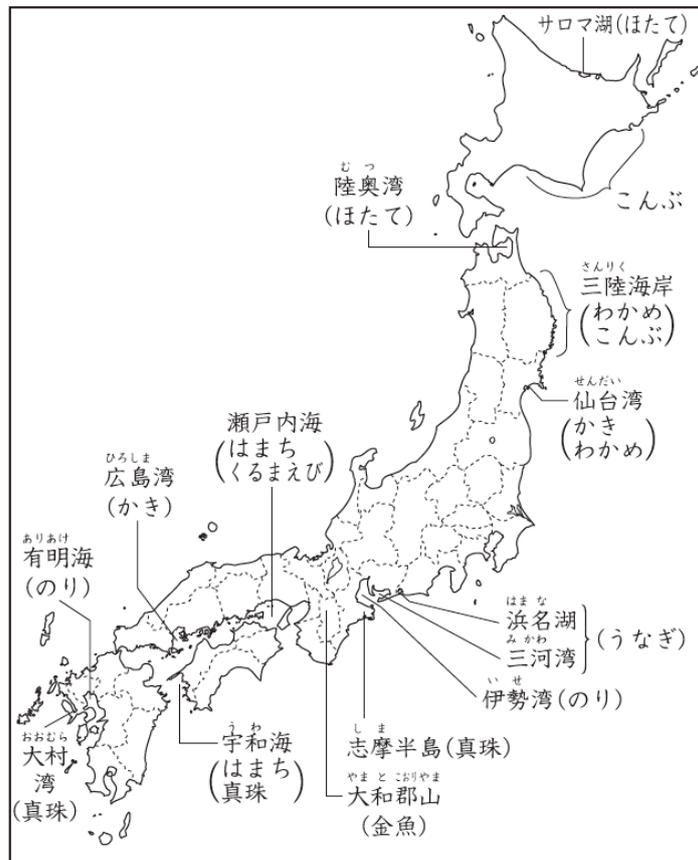
- ・養殖漁業…波の静かな入り江などに作ったいかだやいけすで、魚や貝、海草などを大きくなるまで育ててとる漁業。
- ・さいばい漁業…魚の卵を人工的にふ化させて、一定の大きさの稚魚^{ちぎよ}・稚貝まで育てて川や海に放流し、自然の中で育ててとる漁業。

◎世界的に漁業を制限して水産資源を保護しようという動きが強まっている。日本も水産資源を育て、保護する努力をする必要がある。

日本のおもな漁港と漁獲量



養殖漁業のさかな地いき



2 日本の工業

1 いろいろな工業

①工業の種類

<重化学工業>

○機械工業…日本の工業の中心となっている。多くの機械製品は輸出されている。

- ・機械…自動車 船 飛行機など。
- ・電気機械…家庭用電気器具 集積回路 (IC) など。
- ・精密機械…時計 カメラなど。

○金属工業…鉄鉱石、銅鉱、ボーキサイトなどを鉄鋼、銅、アルミニウムなどの金属に加工したりする工業。

・鉄鋼業…日本の金属工業の中心。石灰石以外の原料はほとんど外国から輸入している。

○化学工業…石油などからプラスチックや薬品などを作る工業。

・石油化学工業…日本の化学工業の中心。原料の石油はほとんどを輸入にたよっている。

<軽工業>

○食品工業…農作物・水産物を加工して、食料品を作る工業。

○繊維工業…天然の原料を加工して、糸や布などを製造する工業。

○よう業…土や石を高温で焼き、陶磁器やセメント、ガラスなどを作る工業。近年土以外の新しい素材を使った焼き物であるファインセラミックスが注目を集めている。

○製紙・パルプ工業…木材から紙の原料となるパルプを作るパルプ工業と、パルプから紙を作る製紙工業を合わせたものである。

②日本の工業の特色

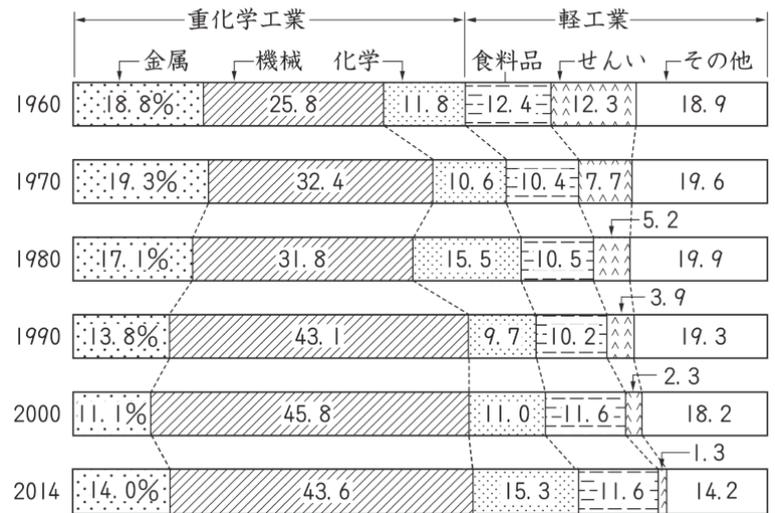
現在では、製造出荷額の70%を重化学工業がしめており、中でも機械工業が盛んである。

<工場の種類>

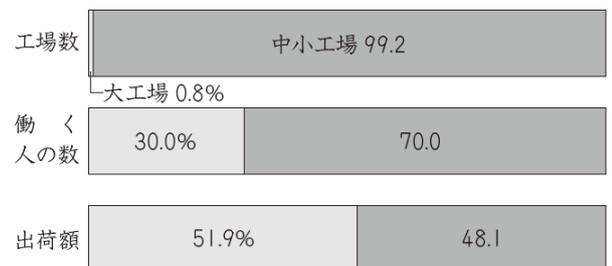
○大工場…働く人の数が300人以上の工場のこと。工場数は少ないが、出荷額の約半分をしめている。

○中小工場…働く人の数が300人未満の工場のこと。(働く人1~19人を小工場、20~299人を中工場という。)日本のほとんどの工場が中小工場で、さらに全工場の80%は19人以下の小工場となっている。また中小工場は、大工場の下うけの仕事をする関連工場となっているところが多い。

日本の工業別出荷額の変化



大工場と中小工場の割合



③工業のさかんなところ

<四大工業地帯>（※現在では北九州工業地帯を除いた三大工業地帯と呼ばれることが多い。）

○京浜工業地帯…第二次世界大戦後から近年までは第1位の出荷額であった。機械工業の割合が高く、東京は出版・印刷業の割合がひじょうに高い。

○中京工業地帯…現在第1位の出荷額をほこる。機械工業の割合が高く、豊田を中心に自動車工場が集まっている。繊維工業もさかんである。

○阪神工業地帯…第二次世界大戦前までは第1位の出荷額であった。金属・化学工業の割合が高い。また中小工場が多く、せんい工業がさかんという特色もある。

○北九州工業地帯（※現在では北九州工業地域と呼ぶことが多い）…かつては近くに筑豊炭田があり、鉄鋼業がさかんで四大工業地帯として発展していた。エネルギーの中心が石油となり、新しくできた工業地域におされ、全国における地位は低下した。

<各地の工業地域>

○京葉工業地域…化学工業の割合がひじょうに高く、金属工業の割合も高い。

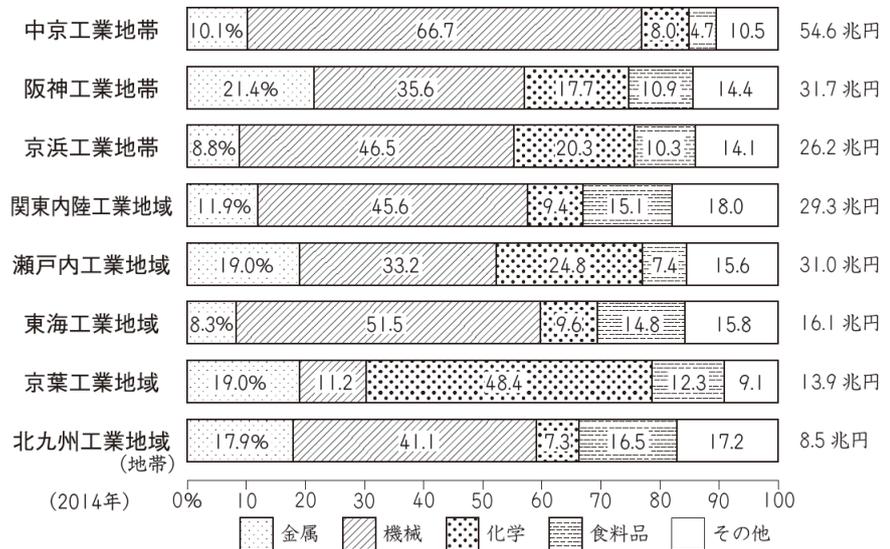
○東海工業地域…機械工業の割合が、中京工業地帯の次に高い。浜松で楽器・オートバイの生産がさかんである。

○瀬戸内工業地域…化学工業のしめる割合が高い。倉敷（水島）・周南などで石油化学コンビナートが発達している。

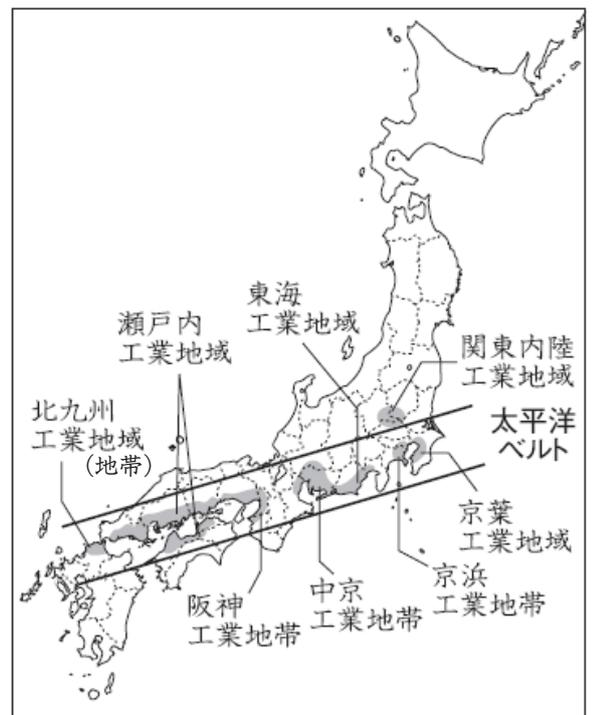
<太平洋ベルト>

日本では人口が多く工業が発達している大都市が、太平洋側や瀬戸内海沿岸の平野部に集中している。これらの地域は、帯のように連なっていて、太平洋ベルトと呼ばれている。北海道や北陸工業地域をのぞくおもな工業地帯・地域は、太平洋ベルトに入っている。

各工業地帯・地域の工業のうちわけと出荷額



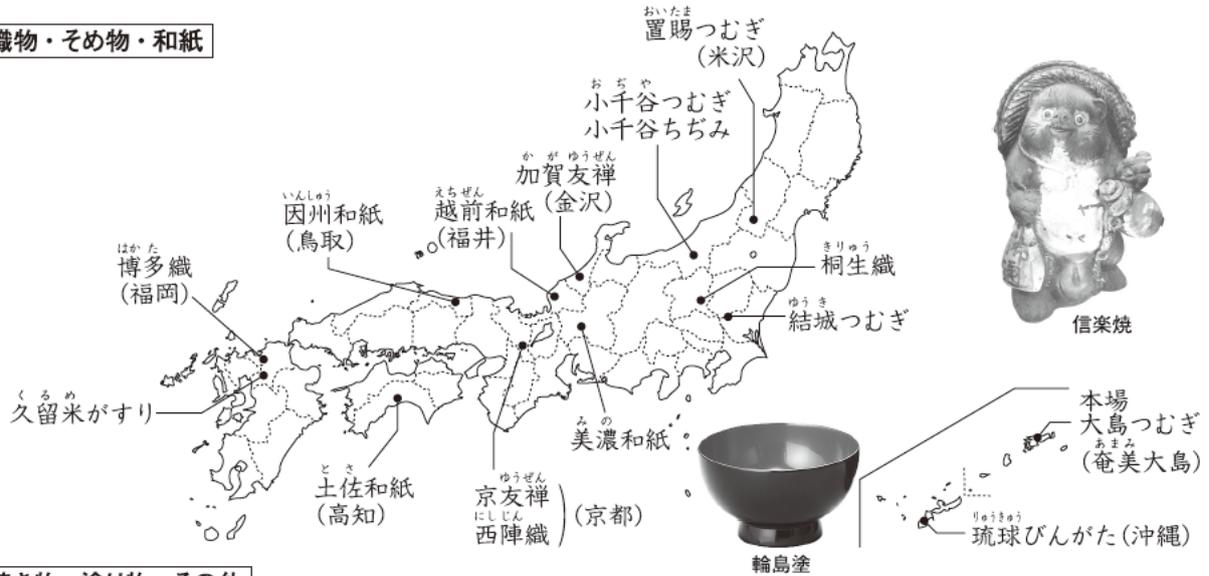
工業のさかんなところ



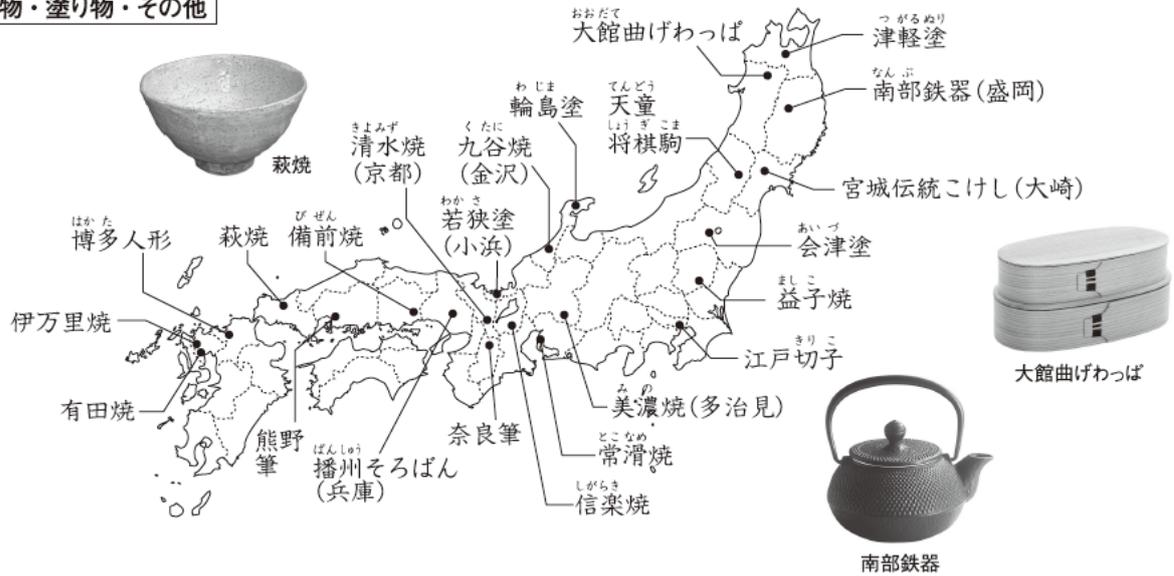
④伝統工業

昔からのつくり方を守って作られている製品を製造する工業を伝統工業といい、その土地の気候や特産物を生かしているものが多い。

織物・そめ物・和紙



焼き物・塗り物・その他



⑤公害

日本では第2次世界大戦後、工業が急激に発達し、空気、水、土などの自然がよごされ、地域の住民の健康や命をうばったりする公害病が発生した。公害対策や環境の保護を総合的に行うため政府は1971年に環境庁を設置した。その後環境問題はますます重要な問題になったため、2001年に環境庁から環境省になった。

<四大公害病>

- 水俣病…1953年ごろ熊本県水俣市で発生。工場廃液の有機水銀が原因。
- イタイイタイ病…1955年ごろから富山県神通川流域で発生。上流の鉾山から流れ出たカドミウムが原因。
- 四日市ぜんそく…1955年ごろから三重県四日市市で発生。石油コンビナートの煙突から出るけむりにふくまれる亜硫酸ガスが原因。
- 新潟水俣病 (第二水俣病) …1964年ごろから新潟県阿賀野川流域で発生。化学工場の排水にふくまれる有機水銀が原因。

四大公害病の発生した地域



3 日本の自然と産業

1 国土の位置と地形

<日本の位置>

日本はユーラシア大陸（アジア大陸とヨーロッパ大陸を合わせたよび方）の東のはし、北緯約 20 ~ 46 度、東経約 123 ~ 154 度に位置している。日本の標準時の基準となる標準時子午線は東経 135 度（兵庫県明石市のあたり）である。

<日本の国土>

北海道、本州、四国、九州の 4 つの大きな島と、約 7000 の小さな島々からなっており、北東から南西に約 3000km、弓のようにのびている。国土面積は約 38 万 km² である。

- ・北のはし：択捉島（北海道）
- ・南のはし：沖ノ鳥島（東京都）
- ・東のはし：南鳥島（東京都）
- ・西のはし：与那国島（沖縄県）

<日本のまわりの海>

日本は、太平洋・日本海・東シナ海・オホーツク海に囲まれた島国である。

<日本の地形>

・山のように

国土の約 4 分の 3 が山地であり、あまり広い平地はない。山地は日本列島を背骨のように連なっており、国土を太平洋側と日本海側に分けている。
 ※日本の屋根…飛騨山脈・木曾山脈・赤石山脈は 3,000 m 級の山々が連なり、日本の屋根（日本アルプス）と呼ばれている。

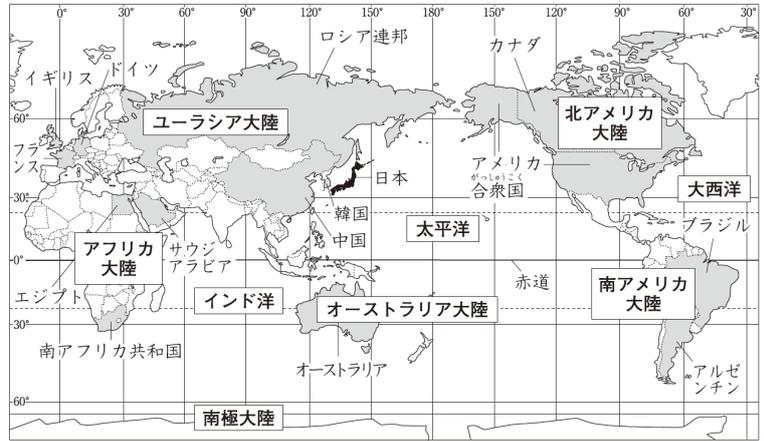
・海流と海岸

①海流…暖流と寒流の 2 種類にわけられる。日本の近海では 4 つの海流がある。暖流と寒流のぶつかる場所は潮目といわれる。

②日本の海岸…出入りがおおく複雑なため、国土の面積に比べて海岸線が長い。

※リアス海岸…出入りのはげしい海岸で、波の静かな入り江は港に適している。東北の三陸海岸、三重県の志摩半島、福井県の若狭湾などが知られている。地震などによる津波の害を受けやすい。

リアス海岸



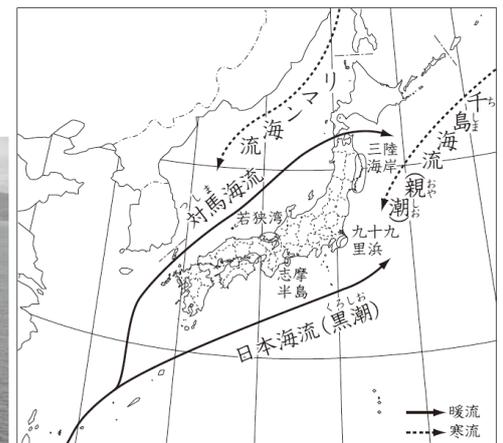
日本のまわりの国々と海



日本のおもな山地・山脈



日本の海流と海岸

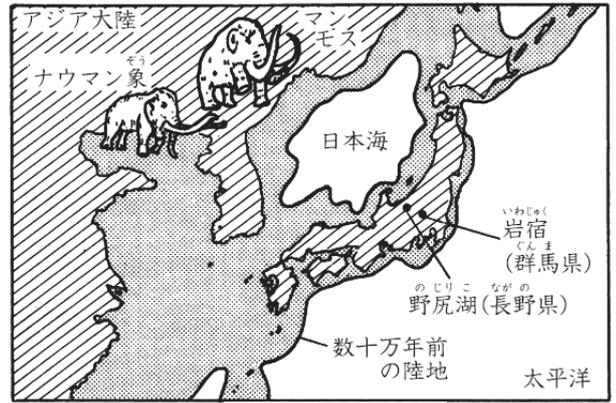


4 日本の国の成り立ち

1 日本列島の成立

地球は今から 100 万年前から氷河時代に入り、海面が今より 100m 以上低い時期もあり、日本列島は大陸と陸続きであった。約 1 万年前に氷河時代が終わると、海面が上昇し、日本列島は大陸から切りはなされて、ほぼ現在のような姿となった。

大むかしの日本



2 旧石器時代

人々は石を打ち欠いた打製石器を使い、動物を狩り、木の実を採取し、移動して生活していた。岩宿 (群馬県) 遺跡の赤土の中から打製石器が発見され、日本に旧石器時代があったことが証明された。

旧石器



3 縄文時代

人々は食物の調理や保存に、表面に縄目の文様のついた縄文土器を使い始めた。この土器が使われた時代を縄文時代という。人々は、たて穴住居に住み、狩りや漁、採集の生活をしてきた。自然のめぐみへの感謝や魔よけのために土偶がつくられ、住居のちかくなどには、食べ物の残りがすなどのごみ捨て場である貝塚がつくられた。

縄文土器



※青森県 三内丸山遺跡

4 弥生時代

紀元前 4 世紀ごろ、大陸から九州北部に稲作が伝わり、次第に東日本に広まった。稲作とともに、青銅器や鉄器などの金属器も伝えられた。うすくてかたい上質の弥生土器がつくられるようになった。この紀元前 3 世紀から紀元 3 世紀ごろまでの約 600 年続いた時代を弥生時代という。

弥生土器



※静岡県 登呂遺跡 佐賀県 吉野ヶ里遺跡

<むらから国へ>

稲作が広まると、共同作業で稲作を行うようになりむらができた。人々の間に貧富の差が生まれ、力の強いむらが力の弱いむらを従えて、国と呼ばれるまとまりになった。

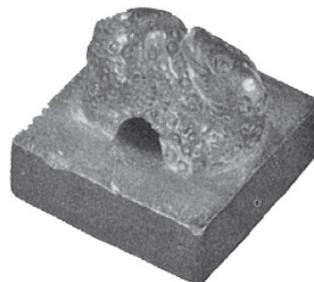
<中国の歴史書に記された日本の様子>

「漢書」地理誌…紀元前後「倭 (日本) には 100 あまりの国があった」

金印

「後漢書」東夷伝…紀元前 1 世紀の半ば、「倭の奴国の王が漢に使いを送り、皇帝から金印をあたえられた。」

「魏志」倭人伝…3 世紀「邪馬台国の女王卑弥呼が 30 あまりの小国を従えており、魏に使いを送り、親魏倭王という称号と金印を授けられた。」



5 古墳時代

3世紀後半になると、奈良盆地を中心とする大和地方の豪族（王）たちは、大王（のちの天皇）を中心に連合し、大和朝廷（政権）が国土を統一した。このころから、前方後円墳などの大きな墓（古墳）がつくられるようになった。また、大陸との関係が深まり、中国や朝鮮から日本列島に一族で移り住む渡来人が増えた。渡来人は大陸の文化、土木などの技術、漢字・儒教・仏教なども伝えた。仏教が伝えられたのは百済からである。

6 飛鳥時代

<聖徳太子の政治>

女帝である推古天皇の摂政となった聖徳太子は、蘇我馬子と協力し、天皇を中心とする政治制度を整えようとした。

・冠位十二階…新たに12の冠位を定め、家がらではなく、才能や功績のある人物を、役人に取り立てようとした。

・十七条の憲法…豪族に対して、天皇の命令に従うことなど、役人としての心構えを示した。

・遣隋使…中国の進んだ制度や文化を取り入れるため、小野妹子らを隋に送り、対等な国交を目指した。

<飛鳥文化>

飛鳥地方（奈良盆地南部）を中心に、日本最初の仏教文化が栄えた。聖徳太子が建てた法隆寺は、現存する世界最古の木造建築である。法隆寺には、釈迦三尊像などの仏像や玉虫厨子などの工芸品がおさめられている。

だいせん 大仙（大山）古墳



聖徳太子



法隆寺



5 律令制度と奈良の都

1 飛鳥時代

<遣唐使>

630年、第1回遣唐使として犬上御田鍬らがおくられ、その後数十回続けられた。阿部仲麻呂は帰国できず、唐で一生を終えた。また唐の僧鑑真は、苦難のすえに來日し、唐招提寺を建てて、仏教の発展につくした。

<大化の改新>

聖徳太子の死後、中大兄皇子は、645年、中臣鎌足（のちの藤原鎌足）らとともに蘇我氏をたおし、新しい政治のしくみをつくる改革を始めた。このとき初めて「大化」という年号が使われたので、この改革は大化の改新とよばれる。この改革でそれまで皇族や豪族が支配していた土地と人民を、国家が直接支配する公地公民という方針が示された。中大兄皇子は、即位して天智天皇となり、戸籍を整えるなど改新の政治を進めた。

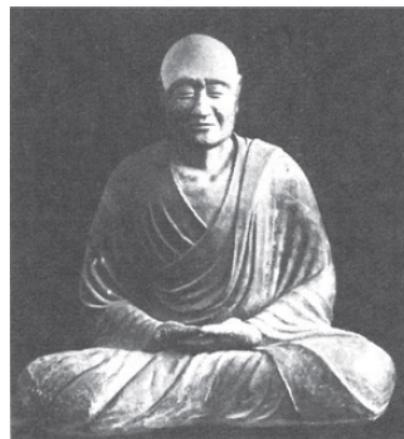
<壬申の乱>

天智天皇の死後、あとつぎをめぐる争い（壬申の乱）がおり、勝利した天武天皇は、天皇を中心とする国家づくりを進めた。

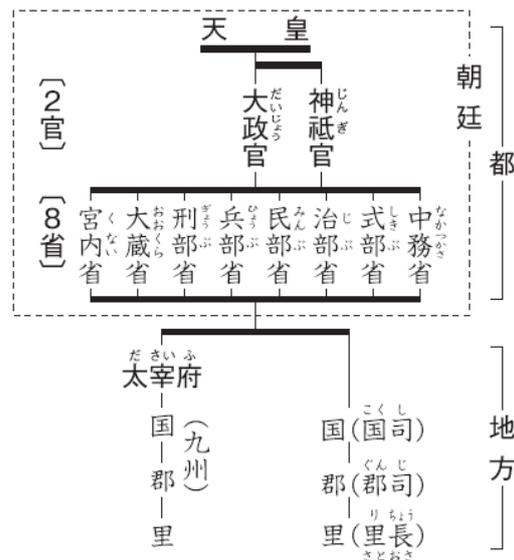
<律令制度>

701年、唐の律（刑罰のきまり）、令（政治のきまり）にならって大宝律令が制定された。都には二官八省の役所が置かれ、地方支配のために国・郡・里が置かれた。これによって、律と令に基づいて全国を支配する仕組みが出来上がった。

鑑真



律令による政治のしくみ

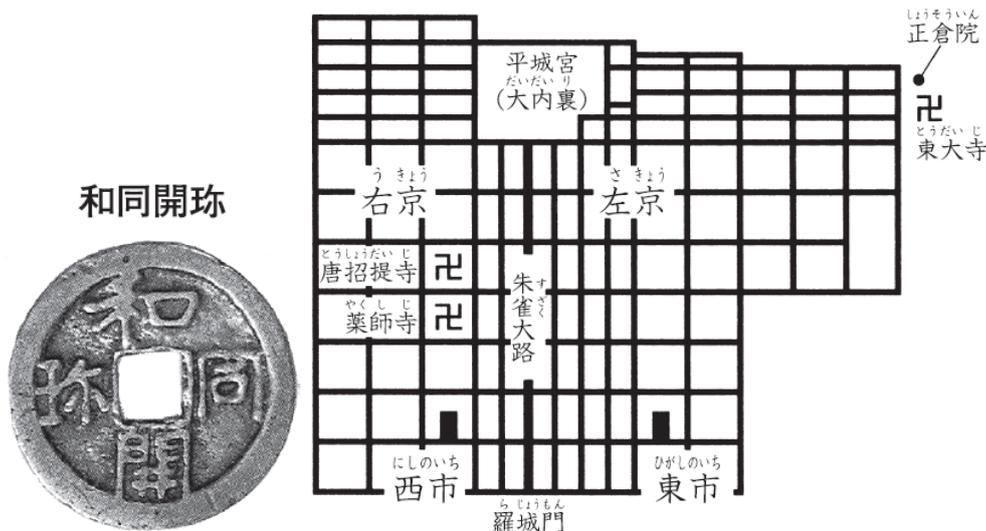


2 奈良時代

<平城京>

710年、元明天皇のとき、律令国家の新しい都として、唐の長安にならって、奈良に平城京がつけられた。平城京は道路によってごぼんの目のように区切られ、東西の市では、和同開珎が使われることもあった。

平城京



和同開珎



＜班田収授法＞

戸籍にもとづき、6歳以上の男女に口分田があたえられ（班田収授法）、農民は租・庸・調の税や労役、兵役が課せられた。兵役の中には、防人として九州北部の守りにつくものもあった。

＜国分寺・国分尼寺・東大寺＞

聖武天皇と光明皇后は、仏教の力で国を守ろうと、国ごとに国分寺と国分尼寺を、奈良には大仏をまつる東大寺を建てさせた。

＜荘園の始まり＞

自然災害や人口の増加のため、口分田が不足してきた。朝廷は、開墾をすすめるため、723年三世一身の法（新しく開墾した土地は子孫3代まで私有を許す法律）、続いて743年には、墾田永年私財法（新しく開墾した土地（墾田）の私有が認められ、子孫に伝えたり売ったりすることができる法律）をだした。これにより、公地・公民はくずれ、開墾した土地の永久私有が認められたため、貴族や寺院は周りの農民を使って開墾を進めて私有地（のちの荘園）を増やした。

＜天平文化＞

都を中心に、仏教と唐の文化の影響を強く受けた、はなやかな貴族の文化が栄えた。この文化は、聖武天皇の天平年間に最も栄えたので天平文化と呼ばれる。東大寺の正倉院には、聖武天皇の遺品などがおさめられている。神話や伝承をもとに、歴史書として、太安万侶が「古事記」を、舎人親王が「日本書記」をまとめた。地理書として国ごとの産物や伝承をまとめた「風土記」がつくられた。また、天皇や貴族だけでなく、防人や農民の歌まで約4500首をおさめた、日本最初の歌集である「万葉集」がつくられた。

農民の負担

そ 租	しゅうかく 収穫の約3%の稲 いね
ちよう 調	地方の特産物
よう 庸	都での労役のかわりの布 ろうえき
ぞうよう 雑徭	年間60日以下の労働
へいえき 兵役	中央：衛士 えじ 地方：防人 さきもり

正倉院



6 摂関政治と武士の進出

1 平安時代

<平安京>

奈良時代の中ごろから、貴族や僧の勢力争いが激しくなり、道鏡のように政治に口を出す僧も現れた。桓武天皇は、律令政治を立て直すため、794年、都を平安京（京都）に移した。朝廷は、坂上田村麻呂を征夷大將軍として、東北地方の蝦夷に対して大軍を送った。

<摂関政治>

藤原氏は、娘を天皇のきさきとし、その子を天皇に立てて、天皇が幼いときは摂政（866年藤原良房が摂政になる）、成人すれば関白（887年藤原基経が関白になる）となって、天皇に代わって政治を動かした。これを摂関政治という。

藤原氏の摂関政治は、11世紀前半の藤原道長とその子頼道のころ全盛期をむかえた。藤原氏は朝廷の高い位を独占し、荘園からの収入によって、はなやかな生活を送った。このころ、有力な貴族や寺社は、地方の豪族たちから多くの荘園を寄付され、税をおさめなくてもよい特権（不輸の権）や、役人を荘園に立ち入らせない特権（不入の権）をもつ者も現れた。

藤原道長の和歌
この世をばわが世とぞ思ふ
望月のかけたることもなしと思へば

<最澄と空海>

9世紀の初め、最澄（伝教大師）と空海（弘法大師）は唐にわたり、新しい仏教を学んで帰国した。最澄は、比叡山延暦寺を建てて天台宗を広め、空海は高野山金剛峰寺を建てて真言宗を広めた。

<国風文化>

唐がおとろえると、朝廷は894年、菅原道真の意見を入れて遣唐使を停止した。このころから、日本の自然と生活にあった国風文化がおこった。漢字を変換して、かな文字がつくられ、紀貫之らが「古今和歌集」を編集し、紫式部が「源氏物語」を、清少納言が随筆「枕草子」をあらわした。紀貫之は「土佐日記」をあらわした。

高野山金剛峯寺



かな文字の発生

阿	ア	安	安	あ	あ
伊	イ	以	以	い	い
宇	ウ	宇	宇	う	う
江	エ	衣	衣	え	え
於	オ	於	於	お	お
(漢字)	(カタカナ)	(漢字)	(漢字)	(ひらがな)	(ひらがな)

2 武士の成長

<武士のおこり>

地方で力をつけた豪族たちは、一族や従者に武器を持たせ、戦う集団を育てた。この集団は武士と呼ばれ、京都に上って貴族たちの警備を行い、実力をつけていった。このような武士のなかでも、天皇の子孫とされる源氏と平氏が特に有力であった。

<平将門の乱と藤原純友の乱>

10世紀の初め、関東で平将門が、瀬戸内海で藤原純友が、周辺の武士をひきいて反乱をおこした。朝廷は武士の力を借りて反乱をおさえ、武士はさらに力を伸ばした。

<院政>

1086年、白河天皇は、位をゆずって上皇となったのちも、院とよばれる御所で藤原氏をおさえて政治を行った。この政治を院政と呼び、多くの荘園が院に集まった。

<平氏の政治>

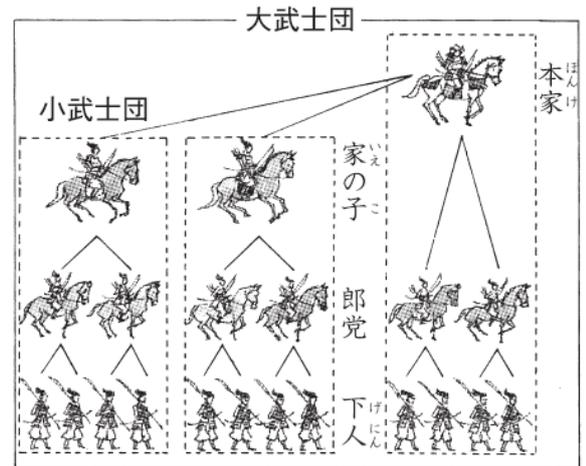
院政が始まると、政治の実権をめぐる上皇と天皇

が対立し、保元の乱・平治の乱がおこった。源氏と平氏はそれぞれ二派にわかれてあそい、平治の乱で源氏をおさえた平清盛が、武士として初めて太政大臣となり、政治の実権をにぎった。

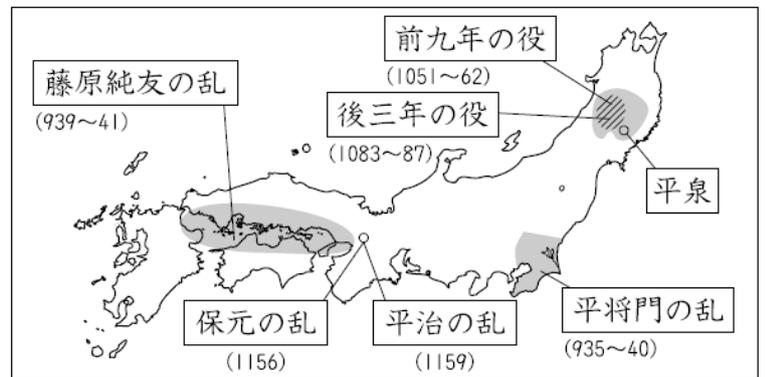
<日宋貿易>

平清盛は、瀬戸内海の航路や大和田泊（現在神戸港）を整備し、宋と貿易を行って大きな利益をあげた。日本からは刀剣、いおうなどが輸出され、宋からは、銅銭・陶磁器などが輸入された。

武士団のしくみ



▼武士の成長



7 武士の政治

鎌倉時代

<平氏の滅亡>

平氏の政治は、一族中心だったため、貴族や寺院、地方の武士の反感が高まった。源頼朝は、北条氏の力をかりて兵をあげ、鎌倉を本拠として、関東を支配下に入れた。頼朝は、弟の義経をさしむけて、壇ノ浦（山口県下関市）で平氏をほろぼした。

<鎌倉幕府>

頼朝は、1185年国ごとに守護を、荘園や公領ごとに地頭を置くことを朝廷に認めさせた。1192年、征夷大將軍に任じられた。この武家政治の体制を鎌倉幕府という。幕府の中央には、政所、侍所、問注所が置かれた。

<御恩と奉公>

將軍と主従関係を結んだ武士を御家人といい、將軍は御家人の先祖代々の領地を保護し、手がらがあれば領地をあたえた（御恩）。これに対して御家人は京都や鎌倉の警備にあたり、戦いがおこれば命をかけて戦った（奉公）。

このような主従関係をもとにした社会のしくみを封建制度という。

<執権政治>

頼朝の死後、政治の実権は頼朝の妻政子とその父北条時宗に移り、北条氏は將軍の補佐役である執権の地位を独占するようになった。

<御成敗式目>

執権北条泰時は、1232年、裁判の基準を御家人に示すために、武士の社会でおこなわれていた慣習にもとづいて、51か条の御成敗式目を定めた。

<元寇>

フビライ＝ハンを皇帝とする元の大軍は、執権北条時宗のとき、1274年（文永の役）と1279年（弘安の役）の2度にわたって、高麗の軍勢も合わせて北九州にせめてきた。元軍は集団戦法や優れた火器で日本軍を苦しめたが、2度とも暴風雨にあって引きあげた。

<永仁の徳政令>

幕府は元寇を防いだ御家人に恩賞の土地をあたえることができなかった。また、御家人たちは領地の分割相続で生活が苦しくなっていた。幕府は徳政令を出したが、一時的な効果しかなかく、幕府の力はおとろえていった。

2 南北朝時代

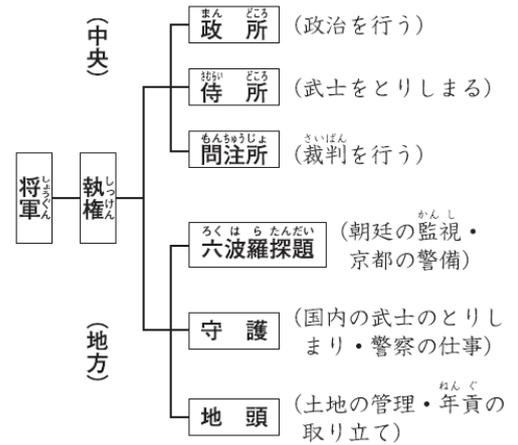
<建武の新政>

鎌倉幕府のおとろえを見た後醍醐天皇は、楠木正成などの新興武士や、足利尊氏・新田義貞などの有力御家人を味方につけ、1333年、鎌倉幕府をたおし、天皇中心の建武の新政を始めた。

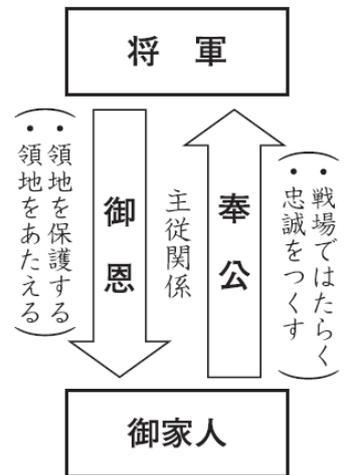
<南北朝>

建武の新政は、公家重視の政策が続いたため、武士の不満が高まり、足利尊氏が武家政治の再興を呼びかけ兵を上げたため、2年余りでくずれた。後醍醐天皇は吉野（奈良県）に逃れた（南朝）。尊氏が京都に新しい朝廷（北朝）をたてたので2つの朝廷が対立するようになった。この南北朝の争いは約60年続いた。

鎌倉幕府のしくみ



御恩と奉公



後醍醐天皇



3 室町時代

<室町幕府>

1338年、足利尊氏は、北朝から征夷大將軍に任じられて幕府を開いた。
 1378年、3代將軍足利義満が京都の室町の「花の御所」と呼ばれる屋敷に幕府をうつしたので、足利氏の幕府を室町幕府という。室町幕府では、執権に変わって管領が置かれ、有力な守護大名がこの職についた。

<南北朝の合一>

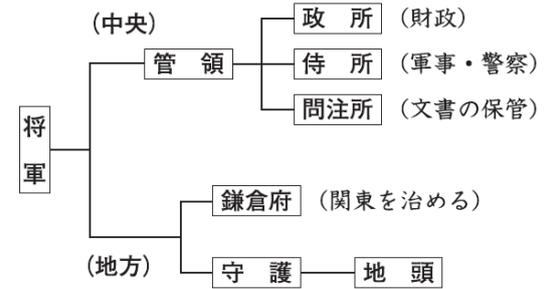
足利義満は、全国の武士を支配し、1392年、南北朝を合一させた。

<室町時代の文化>

公家と武家の文化がとけ合い、禅宗の影響を受けた、簡素でおもむきのある文化が栄えた。足利義満が京都の北山に金閣を建てたころ栄えた文化を北山文化、足利義政が京都の東山に銀閣を建てたころの文化を東山文化と呼ぶ。

- ・能…観阿弥、世阿弥によって大成された。
- ・水墨画…雪舟によって完成された。

室町幕府のしくみ



室町時代の文化

建築



金閣 (足利義満)



銀閣 (足利義政)

4 戦国時代

<応仁の乱>

8代將軍足利義政のとき、守護大名の細川氏と山名氏が將軍のあとつぎ問題をめぐって対立し、1467年、京都で応仁の乱がおこった。戦乱は、多くの守護大名をまきこんで11年にわたって続き、京都は焼け野原となった。

<下剋上>

幕府の力がおとろえ、守護の家来が守護大名の地位をうばうことも多くなった。このように下の身分の者が、上の身分の者を実力でたおして地位をうばうことを下剋上という。

<鉄砲とキリスト教の伝来>

1543年、ポルトガル人を乗せた中国船が種子島 (鹿児島県) に漂着し、鉄砲が伝えられた。1549年にはイエズス会のフランシスコ=ザビエルが鹿児島に上陸し、キリスト教を伝えた。

5 安土桃山時代

<織田信長>

織田信長は、桶狭間の戦いで今川義元を破り、1573年には、將軍の足利義昭を京都から追い出して、室町幕府をほろぼした。鉄砲を使った戦法で、長篠 (愛知県) の戦いで武田氏を破り、近江 (滋賀県) にそう大な安土城を築いて天下統一の本拠地とした。

<豊臣秀吉>

信長が本能寺で明智光秀にそむかれて自殺すると、豊臣秀吉は光秀をたおして後継者となった。秀吉は大阪城を築き、1590年、小田原 (神奈川県) の北条氏をほろぼして、全国を統一した。

長篠の戦い



豊臣秀吉

